

教 育 委 員 会 会 議 次 第

令和4年11月10日（木） 15:05
小倉北区役所 5階 503会議室

1 開 会

2 案 件

(1) 協議

協議①「人事について」

(労務争訟担当課長)

(2) その他報告

その他報告①「北九州市公立学校教員採用候補者選考試験実施要綱」の一部
改正及び令和6年度北九州市公立学校教員採用候補者選考試験
の実施について」

(教職員課長)

その他報告②「令和4年度第1回北九州市学校給食審議会について」

(学校保健課長)

その他報告③「『北九州市特別支援教育推進プラン（素案）』のパブリックコ
メントの結果報告について」

(特別支援教育課長)

3 閉 会

教 育 委 員 会 （ 定 例 会 ）

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 開催年月日 | 令和4年11月10日（木） |
| 2 | 開催時間 | 15:05～18:05 |
| 3 | 開催場所 | 小倉北区役所 5階 503会議室 |
| 4 | 出席者 | (教育長) 田島 裕美
(教育委員) シヤルマ 直美、大坪 靖直、竹本 真実、郷田 郁子、
津田 恵次郎 |
| 5 | 事務局職員 | 教育次長 古小路 忠生
総務部長 小杉 繁樹
教職員部長 高松 淳子
学校支援部長 春日 伸一
学校教育部長 高橋 英樹
次世代教育推進部長 澤村 宏志
総務課長 久保 慶司
企画調整課長 浜崎 善則
教職員課長 立花 昭一
労務争訟担当課長 野口 浩史
学校保健課長 中山 賢彦
特別支援教育課長 小西 友康 |
| 6 | 書 記 | 総務課庶務係長 増田 真二
総 務 課 栗林 奈津子 |
| 7 | 会議の次第 | 別紙のとおり |

教育委員会(定例会)会議録(令和4年11月10日)

1 開 会

15:05 田島教育長が開会を宣言

2 会議録署名委員の指名

田島教育長が会議録署名委員に、竹本委員と郷田委員を指名。

以下の案件を非公開にすることを議決

- ・協議①「人事について」
- ・その他報告③『「北九州市特別支援教育推進プラン(素案)」のパブリックコメントの結果報告について」

3 案 件

(1) 公開案件

その他報告①『「北九州市立公立学校教員採用候補者選考試験実施要綱」の一部改正及び令和6年度北九州市公立学校教員採用候補者選考試験の実施について」

教職員課長が報告。

[報告要旨]以下の項目について報告。

- ・令和6年度北九州市公立学校教員採用候補者選考試験実施について
- ・試験実施における変更点について

大坪委員／特別選考の中の「大学等推薦特別選考」について、伺う。

どういう人が大学から推薦されるのかというのは、今日いただいている資料の2枚目の裏面に、「4選考区分及び受験資格」というところがあり、その表の真ん中に、特別選考で「大学等推薦」がある。

その中の、主な受験資格②で、「学業成績が優秀であり、かつ、本市の教員として優れた実践力を発揮することが期待できること。」という記述が出てくるが、ここについて、先程「優」が8割程度以上という説明があったが、基準について、さらに詳細なものがあれば教えていただきたい。

教職員課長／「良」や「優」が80%以上、かつ、「優」が50%以上という基準を設けている。

大坪委員／大学によって、大学の教科の評価の仕方が少しぶれている。

多くの大学の場合で、「優」の上に「秀」という評価ランクを設定している大学のほうがおそらく多いような気がする。

「優」からスタートする大学も調べていけばあるのかもしれないが、そのように、大学によってずれているところがあるため、調整しながら実際作業をされているので、ご存じだとは思いますが、お伝えしておく。

報 告 終 了

その他報告②「令和4年度第1回北九州市学校給食審議会について」

学校保健課長が報告。

[報告要旨]以下の項目について報告。

- ・令和4年10月に実施した令和4年度第1回北九州市学校給食審議会での議事について

竹本委員／内容は十分理解できた。

給食に関して質問したい。

給食時のコロナ対応は、今どういった状況なのか。また、もし審議会で話し合われた点などあれば伺いたい。

学校保健課長／現在、北九州市が策定している給食のマニュアルの中では、「同じ方向を向いて、いわゆる講義形式の配席を行うこと」、また、「喫食中は会話を控えるということ」を策定している。

現在、学校では、このマニュアルに従い、「給食時間は会話を控える」という運用で進めている。

一方で、すでにマスコミ報道等でもご承知のことかと思うが、国のマニュアルは、「大声での会話は控える」という記載になっている。

一部の自治体では、このマニュアルに沿って、「大声での会話を控える」という表現に変えてきている自治体もあることは承知している。

この件については、子ども医療専門家チーム（CCAT）にも、9月に意見を承った。

その際には、「やはり感染動向を踏まえて慎重に判断したほうがよい」、であるとか、その直前に陽性者の療養期間が短縮されたことに伴い、「一定のリスクを抱えている児童生徒が登校してくるという段階では、なかなか解除に踏み切るのには難しいのではないか」、そういったご意見をいただいた。

竹本委員／慎重に丁寧に審議していただくという点に関しては、そのとおりにお願いしたいと思っているが、子どもたちにいろいろな制限を強いている状況で、できる限り給食の時間というのは、楽しみの1つでもあると思うため、緩和に関して積極的に進めたいと個人的には感じている。よろしく願います。

もう1点、4月からストローレスの牛乳パックが全校で導入されていたと思うが、それについても、実施に伴う子どもたちの様子など、現場の反応などがあれば伺いたい。

学校保健課長／基本的には今、ストローレスの牛乳パックを使うようにしている。

どうしてもストローがないと難しい子どもさん方には、丁寧に対応している。いわゆる口飲みタイプなのだが、子どもたちはストローレスの牛乳パックで飲むのにだいぶ慣れてきていて、先般も、教育長にも曾根小学校の給食にもご参加いただいたが、折り畳んで、飲んだあとのパックを捨てるなど非常にうまく進めてくれており、このストローレスについては、様々な、SDGsの観点も含めて導入してきた。

今は学校の中ではある程度、定着してきたのではないかと考えている。

竹本委員／定着してきたということで、非常に安心した。

ごみを削減するというところで、自ら関わられる取組ということで、子どもたちにとっても、非常によい影響があるのではないかと考えているため、ぜひ授業など、様々なところで実際に取り組んでいる事柄というのを活用し、子どもたちの教育に、この取組の重要性をわかってもらえるような、そういった工夫も是非お願いしたい。

田島教育長／自分の経験した実感も加えてだが、「いい歯の日」ということで、11月8日に曾根小学校で、6年生と一緒に教室で給食をいただいた。

子どもたちがその牛乳パックで、非常に上手に飲むため、もう定着しているのだと実感した。

もう1つ、思わぬメリットだと思ったのは、飲んだあとに、子どもたちが畳んで回収するのだが、ストローを抜くというひと手間がなく、また穴がないため、パタパタと畳み、非常に小さくコンパクトに、折り紙のようになったものを集約し、箱詰めのような形で集めていたため、全体的にストローがないだけでなく、コンパクトに最後集めていたため、「これはよいな」と実感した。

シャルマ委員／2点尋ねる。

8ページ、9ページの、子どもたちを対象にレシピコンクールを行っていることは、給食に対する関心を高める、とてもよい取組だと思う。

学校賞は、応募したレシピの数が多き学校に与えられているのか、どのような学校に与えられているのかをお尋ねしたい。

2点目は、13ページ、会議の度に残食のことばかり言っているが、せっかく中学校でも、給食が定着して残食が減っているところだったのが、コロナ対策での休校を挟んだことが原因なのか、令和3年は非常に、小学校・中学校ともに多くなっているようだが、このことに関しては、どのようにこの背景を分析しているか、伺う。

学校保健課長／まず学校賞だが、こちらは学校全体を表彰する取組であり、資料にあるように、門司海青小学校、合馬小学校、八幡小学校、千代小学校、戸畑中央小学校、中学校も同様だが、学校全体の積極的な取組の部分を、評価させていただいたものであり、学校賞というのは、そのような学校を表彰したものだ。

また、食品ロスの取組については、委員ご指摘のとおり令和2年度、3年度に、大変食品ロスが増加してきた。

少し分析を申し上げますと、やはり主食の残食が非常に多く、また副食についても、それ以前、コロナ禍前と比べると、約倍ほどの残食率になっている。

説明の中でも申し上げたが、コロナや、学級閉鎖・臨時休校、このようなところが重なったというのがある。

また、当日体調不良を訴える児童生徒、あるいはリモート授業を受ける児童生徒もおり、このような部分が複合的に原因になったのではないかと考えている。

教育委員会としても、これまでもフードロスに、様々な対策を取ってきたが、特にコロナ禍においては、なるべく食材の無駄をなくしたいと考えている。例えば、使い回すことができる食材は後日の給食食材に使う、あるいは、昨年度からフードバンクへの提供も始めた。

この件については、教育委員会会議の中でも報告させていただくとともに、ご意見をいただいた保護者の皆様への周知も、給食だよりなどを通じて説明している。

いずれにしても、残食率が上昇したということは重く受け止めており、残食率の低下のために、我々としても分析しながら、基本対策を取ってまいりたいと考えている。

シャルマ委員／食品ロスの観点からのお考えや取組は大変ありがたく、これからも引き続き取り組んでいただきたいと思います。

食品ロスの観点に加えて、給食が、小学生・中学生の発達に必要なカロリーや栄養などを計算して食事が提供されていることを考えると、残食がこれだけ多いということは、それだけ成長発達に必要な栄養が十分に取れていないかもしれないと考えることは、少し大袈裟だろうか。

例えば、食品ロスのことだけ言えば、主食などの量を食べられない人には少なく提供する、段階を設ける、たくさん食べたい人には、しゃもじで分けてあげるなど、そのようなことで今までも対応してこられていると思うが、栄養の面ではどうなのだろうか。

学校保健課長／1食の摂食基準というものがあり、こちらはメニューを考える時に、それを満たすメニュー構成としている。

今、委員がおっしゃったのは、食べ残したお子さん方が、結果的に栄養摂取基準を満たさないのではないかとということと思う。

令和元年度の、例えば副食の残食率を見ると、約1.9%である。

それが令和3年度になると、副食の残食率が3.4%まで上がったということで、これは、先程申し上げた、欠席された子どもさん方の分と合わせて残食率をはじく関係で、残食率がどうしても上がってきたということがあるかと思う。

令和元年度の状況を鑑みると、残す子どもというのが、どのくらいいるか、この辺りが1.9%になるかと思う。

やはり主食と副食全体として、摂取基準を定めているため、喫食される子どもたちは、これを全て食べるというのが大前提だが、やはり、ある子にとっては多い、ある子どもにとっては少ないなど、それが以前は調整ができていたが、今、コロナ禍の中ではそういうやり取りができなくなってしまったということもあり、残食率の増加の一因になっているのではないかと思う。

いずれにしても、なるべく子どもたちにはしっかりとした栄養を取っていただきたいというのは我々の願いであり、学校給食の目指すべき姿でもあるため、そこはしっかり学校とも協力しながら、残食率低下に向けて取り組んでいきたいと考えている。

郷田委員／2点伺う。

1つは異物混入事案だが、発見された期間が近いなど、保護者も気になるものかと思う。

根本的な構造を見直すようなところが必要だと思うが、老朽化の部分に対応するというので、ぜひ進めていただければと思う。

もう1点、給食費の部分だが、食材価格の高騰が前提とあり、そこに関しては補助金などでサポートいただいているということで、感謝申し上げます。

質と金額のバランスを保護者がどれほど理解した上で、給食費の妥当性を認識しているかというのが、実際、意見などをアンケートなどで取ったことがあるかどうか伺う。

「月この程度増える、その中でこの程度よくなる」というのを把握して、給食費が上がることを、「良い、悪い」というような判断を、保護者としてはすると思うため、それらがどのように伝わっているかを知りたいと思った。

様々な状況の家庭があるため、本当にこの値上げというところはデリケートな部分だと思うが、給食費の補助の制度だったり、他の部分もあるため、総合的にどうしていくかというところで保護者の統計のようなものがあれば伺う。

学校保健課長／まず給食費の改定、前回令和2年に改定したが、その中では、審議会の中、具体的な保護者の皆様方からの意見を承るようになっている。

今、経済的な困窮世帯への配慮というご意見をいただいた。

給食を食べている世帯の中には、当然ながら生活保護を受給されている方や、経済的に厳しい方では就学援助などを受けている世帯もある。

そのような支援制度も活用していただきながら、なるべく給食費の負担については、皆様にご負担をお願いしたいと考えているところだ。

郷田委員／なかなか難しいとお伺いしているが、よい内容を提供いただければと思う。

報告終了

(関係者以外退出)

(2) 非公開案件

その他報告③『「北九州市特別支援教育推進プラン（素案）」のパブリックコメントの結果報告について』

特別支援教育課長が報告。

[報告要旨] 以下の項目について報告。

「北九州市特別支援教育推進プラン（素案）」のパブリックコメントの結果について

報告終了

協議①「人事について」

本議案の提案理由を労務争訟担当課長が説明。

[提案理由要旨]

北九州市立学校に勤務する職員に対して懲戒処分を行うため、協議するもの。

協議終了

4 閉会

18:05 田島教育長が閉会を宣言